



武江年表卷之六

明和七年庚寅 六月閏

三月十日より湯島天満宮開帳○十日より新巻赤八幡宮より東北野社
 司不務堂神志草像本地親世寺開帳○浅草祇念寺より三見明顯寺柳
 所堂聖徳太子三尊佛未開帳○四月朔日より麻布善福寺より越後
 高田井波園瑞泉寺親像上人宝物未詳せむ○同日より深川言信寺
 より奥洲合津大用密寺親像如來并帳○青場町茶師如來開帳
 ○深川津より少く身延山奥院祖師鬼子母神開帳○四月十二日より
 深川大佛勧進所より二月堂親世寺并宝物開帳○永代寺より徳倉
 所より井熾磨王本地地蔵并帳○五月より八月迄徳圃大早
 近五橋小虫つり
 江島色虫飛出り

俗小虫をカチと云麦稗も貴一野菜物等の價より高し ○六月上旬星月を雲ぬく
日月神宗河の鯛三味余死海の苦海と云の爲て魚をく死せ

○麻布永坂光照寺弥勒如来開帳 ○六月十九日八月中旬迄日向院にて書
峨清凉寺釈迦如来開帳 ○同日より一日八幡宮に旅りて総明布施并大

天軍帳 ○青山若光寺にて徳念杖本寺親世寺軍帳 ○今年源流の釈迦
開帳ありより思ひおきて山岳明阿弥如来釈迦文佛内像考一巻編輯

所り写本ありて行る ○同六月朔日より所花寺十王堂にて武州松山親吉
寺毘沙門天軍帳 ○七月廿八日夜乾の空あり丹のごとく又幡雲出る

○八月十日より日向院にて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門天開
帳 ○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡 ○八月廿一日日向院にて高野二十

遍名号弥勒如来開帳 ○八月より繁地本願寺にて甲丸轉村福寺於河
坊聖徳太子開帳 ○十一月市谷長延寺にて雲明釈迦徽雲右清一丈圖と

成り雷電為右巻つ一巻一夜のお摸身行 ○十一月廿日官匠望月二英年 兼門山
百里の 人と号

○以冬大多く死せ ○十一月廿六日書家小笠原一甫年 名長和棟理左巻つ
男あり 牛込大信と小基氏

明和八年辛卯

正月廿日麻布より芝込迄焼亡 ○正月廿日儒師宮城龍門年 名維翰 玄田
玄園と小基氏

○正月廿八日書家上田素鏡年 号陸古堂 浅草永見と小基氏 ○二月 日不
村松町より出火

あふ辺塔焼亡浅草新苑前助真先稻荷の辺ふりる ○二月十日より上野
清水堂千手親世寺開帳 ○同廿日より王子稻荷寺明神開帳 ○三月初旬

伊勢米宮流石 所謂お寺ありあり教内を本を始りてお寺お流す
三月八日より

本下川業師如来開帳 ○同五日より所花寺花徳院ありて武勅比企郡慈光
寺 親世寺と深明寺開帳 ○同十一日より日向院にて明曆大火焼死溺

死遊軍江万日日向修形 ○同十五日より下谷五条天祚并天満宮開帳 ○同廿日

しうり不忠池赤才天開帳 ○三月廿九日方より以富士田根江死 古次と云を母の上よりあり甚金持に侍り

○四月朔日より浅草本法寺にて房明本茶小松系鏡恩与祖師開帳

○同日より不忠赤才天内にて務念極末と親迦如來開帳 ○本所六之橋
自性院にて信乃川東南照寺跡地如來開帳 ○四月朔日より浅草寺内より
上総望地郡久保村大日と大日如來熊野持現開帳 ○戸崎町 女量

院より奥乃桑折垂徳与跡院如來極上人像開帳 ○浅草寺町深空寺
文殊并開帳 ○四月江戸雲降る ○四月八日物産家後藤梨妻三平 七十才又孫太
仲橋陸院

と早辰若連の虫多し。芝青ねるお舞辰。又義方
油壺と早辰宮根温泉有る温泉の記行多あり ○四月廿三日曉寅刻吉系揚屋町
火火廓中焼亡 以時お九并助稻荷の社修る今戸橋場辺
あま辺一役宅を補理て高貴せり ○五月二日地震 ○五月十七日

光物飛ぶ ○五月より三股新地築立始る 安永元年の
件又記せり ○六月二日大地震
○女根通用止 ○東埔塞此の小さな浅唐茹子と号してとわり出火

○藥研堀といふハ米沢町二丁目三丁目の地先小丘一入堀あり今年
六月より十月迄は埋立其乃町極と成業研堀埋立地と号し ○七月朔日より

浅草境内より務念永谷貞昌院天満宮開帳 ○七月朔日より回向院にて
大和常麻延生寺跡地如來開帳廿五菩薩素達會修りあり ○八月大風人

家多く倒れと世松り毎以切せと永代橋一高り大橋ありと号し又一艘佃島と
石川島の名一吹上人跡を以て出火 ○九月林田町林系祀延引安永八年より

出火 ○秋永代寺小繁山泉水とくくくを建心とくくを以近辺度く出火
あり ○中お河岸小橋とくくを校の葉より出火して本所小梅追焼け美巖寺

本堂も焼くあり是乃建山の形を写し女人を請りめなる崇ありと号せり 以説
理心

あまのけち山を造るハ永代寺の庭中あり ○神田佐柄本町酒店山川十右衛門
近辺の町並のりの初るあまのけちと号し

親世言像二十三軀と造りし浅草下谷の寺院二十三所安置して願の

所と

此年間記事

△儒家 宇佐美惠助備 松崎才茂觀 井上文平金 井上保茂東 井上仲漢

岡井郡太史明 △詩文 藤孫八雀 細井甚三郎平 宮徹三石 須知文平田

葛城山人 千葉茂石 三浦左衛門山 大内忠右史熊 △書家 三井孫左耳

和澤田文二郎石 松下君嶽鳥 彦代ふた晴乃 伊波善茂益 嵯陵山人通

小河保壽 細井九臯 △和哥 加茂吉剛 藤原守方 佐藤田崎風 菅生女

稻生魚彦 △物産 田村元権 平賀旭溪 後藤梨英 △画家 狩野榮川院

鈴木鄰松 吉田素香 佐藤嵩之 三浦花信 諸葛監文 諸葛といふ名をとり
子門人劉安生也

△俳諧 蓼太 存義 買明 沽山 田社 宝馬 露十 △浮世繪師 藤川 春章門 秋
多む

一筆 亦文 潤 磯田 湖 祐 柳 文 朝 小 松 菴 百 龜 木 行

○三井親和が篆書が好むより親和際と篆字の好む形を傳物とと
る事あり又婦女の衣類表の垂化ふくまふ様子を傳ふ事あり○細舟の
極差をやる武家もの細舟刀を用いし由 ○土平といふ館賣もある谷中坐敷橋為
境内の茶屋建屋のおせん漬草奥山塚本の下揚枝店柳菴のおせん
美女の穿えあり喜信の傳馬 ○曲亭玄明和二年の以庵山の彩色摺ふありひ
て板本師金六といふりの板摺某ふくまひ板本(見當を付る事を云ふ)始
四六遍の彩色摺を製し出せり程あり和とあり摺出の事とありぬと云
蜀山義云此院非之を高を付る彩色摺の延享元年 ○明和二年の以庵人形を若田
江之屋吉右衛門工事を始とすといふり ○明和二年の以庵人形を若田
文三郎同文吾松下りし次彼ら風をうらみ以て羽折の女再せれを好むが
程あり程く成りり ○琴曲 生田 檢校 行る ○富士田 楓 紅 萩 友
木が長唄 新内 常 降 瑞 陽 行る ○二挺 鼓 なる ○朝鮮の弘慶子といふ某

賣市街をゆるく

特色肖袖衣取叶の子差の先まうらう幾うが

○大晦日の夜扇賣の声か

中しうらうが此時代より江戸止まりなり ○曳尾菴云明和安永の以龍陳猫

の繪かんとて市中せおひく常例の者よと名を雲友といふ 又蜀山人の語一言小天明寛政の以

白仙といふもの年々あらた坊主之出羽の秋田小猫の宮あり新の多ありと猫と虎とを画きし社一投の甘納をとりふ自ら猫うたと結く猫と虎と虎画く筆を拵く都下をうれあき猫多しといひいへん画入を画しむれば僅の價をえく画くその猫の筆を避しといふ云くとありりれ先なる未詳

○平賀旭漢紅毛の工レキテルを工支し日本まで製し始む

安永元年壬辰 十月廿五日改元

二月初午漬き西宮稻荷社樂を後 午後休む ○二月廿八日江戸天火坤より良

一飛入 ○二月廿九日乾より西南の風烈く土烟天を覆ひ日光隠れし午の刻

同業移入坂大田寺 台より出火して永壽町通り白金左町麻布辺一系 台福也

開山堂 三田新細町辺狸穴飯倉市と清町あぐれ靈南坂一筋ハ為久保橋田

處が笑虎所門日比谷はつる場先門橋田はつ和田倉はつ常盤橋はつ門

神田橋所門木焼七右道筋はつ内宿廣藩邸灰燈と成る日中橋南ハ通

三田町目西例元四日市町茶町西河原邊より南傳る町中橋を限り上橋

町追小ハ本町石町辺東西林田町と武家方一系小川町入口駿河甚

昌平橋筋建揚所門外林田町と林田社聖堂湯橋天神社月不を急

一系上野仁王門山王社下寺不涉車坂下谷辺廣小路所徒町三味線橋坂

中入谷令松箕橋小塚系吉系町子住大橋向掃部宿湊芝筋ハ下谷

廣徳寺通新堀所川町寺越辺本取寺所堂湊草寺 本堂 妙法

院并寺中馬道田町新寺越橋場少多又同日暮六時本ハ丸山田町

より出火して森川宿邊分約込白山傾城が煙入口追う多丸繩子土物店

千太木入口根津谷中感意寺草坂根花少多 聖晦日未判 以水とて止る 又相互晦日已

刻小風小なり或東風ニ成常盤橋外の大火傳る町辺馬喰町二丁目迄濱町辺堺町葺屋町為産の芝居様芝居四座小畑町大坂町田所町延波町住吉町辺伊勢町駿河町宝町迄日中橋中橋赤橋ふいける未刻双方の火落り姑時大雨降風移るは火より六七里幅一里大小名藩邸も院神社町屋の難夥しく焼死怪家人更救せ知れず

上野仁王の氏時再受の焼亡之感あるべきは
もいふに燒る麻布一巾松中付之後ハ裁製する

○吉原町仮宅今戸橋場山の宿あり赤川八幡寺佃丁より芳町の街籠郎由仲丁の仮宅へ出る
○大火後仍大坂大田吉再建せしその次ある人ハ百羅漢の石像を造立也○雪中菴を修す
横山町は住より一火火より逃れし川右の極要陣中の中菴より一「鐘」を造りて
青丸柳のふといふをせり一八歳あり一一人よりをせりて百鞠をみりて夜をぬせりとぞ

○三月又日より不恩赤乙内より系如堂結寺稻荷町神岡橋

○月十日より牛の所前王子権現岡橋○月十九日芳方天火西より東北へ飛ぶ○四月八日より小日向大日坂妙皇院大日如來岡橋○魚籃觀世音岡橋○四月より五月迄諸必疫癘流行○四月日谷内若新宿新倉

再興所免あり甲坊道中人馬修立の所となりて繁昌せり○大川中洲妙地
 條立成務以町屋の安永四年不至今く成まり

此地ハ妙天橋より南の方浜井
家白須家菅沼家ハ孫若手通り

川岸九丁余坪敷九千六百七十坪余葦屋九十三軒あり中洲の東敷初より安永四年より天明八年
 料裡屋より殊々大度之とて湯屋ハ三軒あり中洲の家敷初より安永四年より天明八年
 延十四年の名之ある中洲の之類ハ赤橋の赤橋を離れり一寛政己未元のこと
 朱樂菱江が橋の大極隆院とて中洲のよりせり記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒
六十五名及賢林甚花儀甚繁於中林名院は華次
初代英一葉晩年の門人ありて始ハ水と云り嵩谷ハ院門之

○八月朔日二日大風而家屋を吹潰る高妻新焼の小屋吹倒るり
 穢武の困苦を○八月五日儒師村士淡也卒
名宗殊林録在事
約込大田より事

○八月十七日大風而再度小強を覆す赤深川出水床

○九月式朱張通用始る○十一月朔日秋九町以上野所本坊失火

○此冬初曆といふ人日善里舟敷若松子碑を建小海入江貞文を撰る

○再按増補江戸砂子挿行 沾涼ガ男雁足軒門人 冬涉按訂次

安永二年癸巳 二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒 秋新傷又冬更去侍の二男 上野護国院ニ葬ル ○三月廿一日平島

長命寺弁才天閣帳 ○二月より田向院境内一言親寺閣帳 ○同寺婦慶申堂

青面金剛閣帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲家弁才天閣帳

○同月より善光稲荷神閣帳 ○四月午の日藤地小田本町浪除稻荷祭

町と出へ縁起お出は生後体む ○三月末より夜病は三人多く死を 江戸中

三月より五月まで九十九万人 所救とて朝鮮人多せある ○四月よりお出の夜

上の宮弁才天閣帳江戸より系譜あり ○五月醫學館再建諸医師より年々

寄附賑乃 ○五月十九日儒師坪井青城卒 名教未 浅草正覺寺ニ葬ル ○葛西本郷

寺日限親世善閣帳 在ワリて半途 ○七月朔日より湯島社地にて攝州

四天王寺聖徳太子閣帳 五月廿六日に君家の時 連の旗多く也 ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あふるゆゑて惣物の價甚貴なり ○これよりして正月門飾の松竹高ふりあり

名ふし所ふあふ川も氷閉て通船絶一日も有し由後又甚ふり

○十二月朔日神田神社仮殿にて宗礼の式執り 當年宗礼の年也有し去冬災 罹り本社内運営いも成らば

産子の町々わり物も多ふりある故今日仮殿にて是式のあり ○安永の始の以綿の実を

生後安永六年迄仮殿にて執り以八月亥年九月奉斎あり ○作りさる所の如く

の蕎麦を食して死すといふ ○墓所一貫ふ画人宋紫石今も終り系本郡中徳寺に葬

鳴一殺ありてその更不賣れり ○自由記せり物も最島扇額縮本又安永七年戊戌五月

宋紫石六十三才もこれ雀を画する額を載りよりして徳本も入りあり ○石碑ありて忌日

慥なり ○同 三年甲午

正月廿日狩野洞屋島信卒 ○二月八日より川口善光寺に延焼か未詳

○三月廿日桂町より出火大風ありて校所焼すといふ ○三月十日中ね娘

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺に葬る 画并俳諧を著し寒葉齋と号す

○同日より魚藍親世音開帳 ○四月朔日より六月廿一日迄大師河原平間
 寺弘法大師中濃稻荷田向院にて開帳 ○四月四日より六月八日迄本所
 表町本寺より祖師開帳 ○四月八日より五月十八日迄本下川茶師如來開帳
 ○永代寺内丈六親世音腰籠佛開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺
 親世音開帳 ○西門外河對面新にて信助煙料郡白香山康樂寺園光大師
 淨影觀音上人木像開帳 ○二本枝廣岳院にて仙臺住生の寶牛像
 後田光大師開帳 ○六所鉢院末本親世音開帳 西が原 昌林寺 ○同三番西が原
 垂量寺親世音開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院
 兩童子松壽院おろく弁才天獲籠像開帳 ○淺草池の妙寺より弁
 才天開帳 ○五月十六日より龜戸天満宮開帳 ○六月六日大雷世七ヶ所小
 落る ○六月廿六日大風雨家屋を損し樹木を倒し

○小石川傳通院山内福聚院大恩天女の比より江戸中一構中を結んで
 甲子の系譜今年より始る ○七月朔日より獲園寺本寺如意輪親世音
 開帳 ○同日より小石川大塚大慈寺親世音開帳 ○七月十五日古筆了延卒
 寺 ○八月十五日市谷八幡宮系礼神樂を演じ練物本寺 ○八月降る
 一才 ○九月朔日より市谷八幡宮内茶の末稲荷初開
 帳元祖齋賀新内死 一才 ○九月朔日より市谷八幡宮内茶の末稲荷初開
 帳 ○九月醫學教講堂成就 ○九月廿日土山聖天宮系礼神樂を演
 じ産子の町より出練物を以て後休む ○九月廿一日小石川白山権現
 系礼神樂を演じ産子町より出練物を以て ○九月深川跡残座止
 ○大川橋始り掛る 俗に吾妻 橋といふ 十月十七日降り始り ○十月廿二日儒師鶴益一卒 左膳
 伊豆子長意 ○画人鳥山石蕨豊房 石蕨と云ふ 山彦といふ繪本二巻を以て以てキホカ
 にもあ罪に 石蕨の周信の門人 あり板刻の画本也
 しの彩色摺を二丈せし以て本を始と云ふ由安乃貞翁の語也

○又此時代橋の珉江といふ繪師ありて、摺邊の粉色を工
夫し職人部類といふ繪師せりて、其外俳諧の意武多と製之りま
し、がやて廢れしり。○投扇の裁りまを、絨是を弄す。

安永四年乙未 十月間

三月十七日より回向院より京清水山養院景清守本尊 千手觀世音毘沙門天
勝軍地藏等開帳。○月廿九日、淡谷長谷寺より京若羽山清水寺
興院千手觀世音毘沙門天地藏等 開帳。○大井來福寺橫橋を裁修す。

○四月朔日より祇園上水源大盛寺井頭赤才天開帳。○津久戸明社
八幡宮開帳。○四月芝切通一時の禱再興。○龜戸聖廟小樓門

建屋上小 四林内 ○大川中洲築立地一家居連續町名を三股富永町と号
し、川辺小葺篋圓の茶店をうけ、五月納涼殊々敏く、怪奇盡

夜不喧

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休說、湧金門行樂。此中難具論、烟暖四時花。世界月清、萬頃
水乾坤垂、楊岸岸樓臺出。遊舫人人歌笑喧、輪却枕列、緣底事、恨
無蘓白、關詞源。

中津納涼同伊藤士善

日落江天、關響寂、趁涼輕舸向、中洲燈棚夾、岸花相映、蟬竦臥、波
橋欲浮、鳳管數聲、風雨扇星河、一帶水悠悠、銀罌倒、盡人難醉、白
紵携、歸滿秋。

中津漫興

十里清湖鏡裡、天繁華、惱客、動留連、鷺鷥沙外、芙蓉雨、楊柳橋頭、
翡翠烟、秋見黃金、爭買笑、誰知白髮暗、催年、笙歌眼底、鎮長滿、自
是來舟、非去船。

○四月より目黒明王院より鎌倉本寺觀世音同岩殿寺觀世音同
宝戒寺觀世音、鎌倉女江番の内一番地藏并開帳。○七月より回向院より
伊豆三島長田寺富士山本地何孫院如來開帳。○七月より回向院より
相模相模塔峯阿孫院寺深誓上人本地法圓光佛開帳。

○七月より市谷柳町を徳院親直が開帳 ○八月十三日より晦日まで
 深川八幡宮開帳 ○月廿二日より横國古山内より後父二十比番親世音
 不務開帳 ○八月茅場町某沙境内よりおが敷野法界より朝日如来開帳 ○九月
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮開帳 ○月日より廿日と飯田町世徳稻
 花天満宮開帳 ○九月十九日牛込赤城明神開帳 ○投壺の技行 末々
研尋し生法を傳ふ投壺指揮投壺文勢圖解未詳 ○紀伊金屋文丸 山が実子
 文右衛門築地飯田町に住し終る善く 終る善く 能遊を好く龜山と号し後其
 養 養 明西といふ今年六十歳才ふく 能文が子孫 ○十二月廿二日儒師
 松蔭親海卒 名維時松才孫 麻井末より小孫 ○薩加より来り 鬘猪 といふ数村田村
 屋町田村元雄の家 元雄 在り 後 淡草境内より見世物と稱せられたる 大 尊
 小松氏骨板百本あり怒る時北骨運 運 立く怒り き 等 等 あり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一 名宗章号玉水林の孫 四十分約過文田より小孫 卒 ○正月廿八日より柳島法
 性寺妙見宮開帳 ○二月風邪流行 ○三月末より秋の始を 麻 疹流行
 人多く死す ○三月廿二日物産家田村元雄卒 名元壺 淡草 其終り小孫 ○四月廿八日詩
 人大肉熊耳卒 八十才名承終終忠孝史下谷廣徳より 葬以男と葉家といふ ○五月六日より八月八日迄回
 向院より伊勢白子親善寺子安親世寺開帳 ○五月朔日より矢口新
 田町本本地十一面親世寺開帳 ○月日より永代寺より六ヶ相田寺大天
 開帳 ○七月朔日より永代寺飛来八幡宮開帳 ○七月廿九日 七十七才 萩生通濟卒 号金谷
 祖孫の男あり ○八月九日儒師宇佐美瀨水卒 名惠字子迪終末助四谷 南より丁戒りより小孫 ○柳橋若舟
 登と云船宿の妻一産小三女を生 名を梅松さくといふまぐの縁語ありといふも せしむるに小作りて街にありといふ
 ○品川の辺より石地藏燈を讀む声ありと云皆人喧ふ り 地蔵尊の